

指針見直しにおける論点整理

指針策定について

2008 年指針と 2014 年指針策定時の社会的状況（策定背景）の違い

- ・ 2008 年指針と 2014 年指針策定時のカーボン・オフセットを取り巻く社会的背景の違いを明確にする。
- ・ 中長期の温室効果ガス削減目標の達成に向けたカーボン・オフセットの位置づけを明確にする。

本指針で扱うカーボン・オフセット及びその類型について

- ・ 指針で取り扱う「カーボン・オフセット」とは、法規制に拠らない自主的な取組としてのカーボン・オフセットであることを明記する。
- ・ カーボン・オフセットの類型を整理する。

指針改定の目的

- ・ 「はじめに」の中で今回の指針改定の目的を明確にする。

オフセットの意義

- ・ カーボン・オフセットは商品やイベントなど多様な取組を通じ、一般市民も含めた幅広い主体が参加できる社会全体での地球温暖化対策であることを明記する。
- ・ カーボン・オフセットは「知って、減らして、オフセット」を通じて、温室効果ガス排出量の「見える化」とクレジット購入を通じたコスト認識が促されることで、更なる CO₂ の削減につながる取組であることを改めて明確にする。

カーボン・オフセットについて

カーボン・オフセットの分類について（商品・サービス/会議・イベント/自己活動/自己活動オフセット支援）

- ・ 自らが排出する温室効果ガスをオフセットする取組と、商品・サービスにクレジットを付与することで消費者が排出する温室効果ガス排出をオフセットする取組の違いがわかるようにする。
- ・ カーボン・オフセットの取組は多様であり、指針において細かい分類は行わない。

ダブルカウントの考え方について

- ・ ダブルカウントについては「クレジット創出プロジェクトの二重登録」、「クレジットの二重発行」、「クレジットの二重使用」及び「環境価値の二重主張」の 4 つに分け、ダブルカウントの防止について明記する。
- ・ 法規制に拠らない自主的なカーボン・オフセットに係る「環境価値の二重主張」については、消費者に誤解を与えないことを前提に、カーボン・オフセットに関わるステークホルダーの個々の役割に合った情報提供を行うこととし、厳格に抑制するようなことはしない。

認証について

- ・ カーボン・オフセットの信頼性・透明性を高めるための有効な一つのツールとして認証制度の紹介を行う。

今後の取組について

カーボン・オフセットの普及について

- ・ 市民へのカーボン・オフセットの普及には、分かりやすさ、動きやすさの演出を含めた普及活動が必要であり、カーボン・オフセットを国民的な運動論として捉えた普及施策のあり方を検討する。
- ・ カーボン・オフセット商品等に対する消費者の受容性を高めるために、環境教育の中にカーボン・オフセットを取り入れることを検討する。
- ・ 組織（企業）や商品・サービスのオフセットの取組を促進させるための施策のあり方を検討する。

カーボン・オフセットの取組の評価について

- ・ 企業におけるカーボン・オフセットの促進の後押しとして、カーボン・オフセットに取り組む企業が評価される仕組み（インセンティブ）について、今後の検討の可能性も含めて明記する。

都市・地域におけるカーボン・オフセットについて

- ・ 都市・地域で温室効果ガス排出量を削減することが重要であり、オフセットは減らしきれない排出量を取り扱う一つのツールであるということを前提に、国内外で先進的に取り組まれている都市・地域レベルでの温室効果ガス排出量の算定及びカーボン・オフセット/ニュートラル化についての将来的な可能性を紹介する。
- ・ 都市・地域におけるカーボン・オフセットの取組の一つとして地方自治体の地球温暖化対策実行計画の中などでオフセットが位置づけられるよう言及する。

政府が主体となったカーボン・オフセットの取組について

- ・ 政府が主体となったカーボン・オフセットの取組促進について記述する。

その他

使用語彙について

- ・ 定着をしていない語句については、その意味について丁寧な説明の付記やその語彙自体の見直しを行う。

既存ガイドラインの取扱いについて

- ・ 事業者の利便性を考慮したガイドライン類を再整理する。